

令和5年5月12日

# 令和5年度 病害虫発生予察情報 第2号(5月予報)

群馬県農業技術センター  
環境部発生予察係  
(病害虫防除所)  
TEL 0270-62-1059  
FAX 0270-20-8016

## 【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
作物全般	アブラムシ類	栽培地帯全域	—	並
イネ	縞葉枯病	感受性品種栽培地帯	並	並
	イネミズゾウムシ	早期・早植栽培地帯	並	並
	苗立枯病	栽培地帯全域	並	並
ムギ類	赤かび病	栽培地帯全域	早い	並
	うどんこ病	栽培地帯全域	—	並
	さび病	栽培地帯全域	—	並
ナシ	赤星病	栽培地帯全域	—	並
	ナシヒメシンクイ	栽培地帯全域	—	並
果樹類全般	チャバネアオカメムシ	栽培地帯全域	やや早い	並
施設果菜類	灰色かび病	施設栽培地帯全域	—	並
トマト・キュウリ	コナジラミ類	施設栽培地帯全域	—	並
キュウリ	べと病	施設栽培地帯全域	—	並
	褐斑病	施設栽培地帯全域	—	並
	うどんこ病	施設栽培地帯全域	—	並
	アザミウマ類	施設栽培地帯全域	—	並
ナス	ハダニ類	施設栽培地帯全域	—	並
	アザミウマ類	施設栽培地帯全域	—	並
夏秋キャベツ	コナガ	高冷地栽培地帯	—	並

(発生時期の—は連続発生)

【主な病害虫の発生予報】

I) 作物全般

アブラムシ類	発生地域	発生時期	発生量
	栽培地帯全域	—	並

1 予報の根拠

- (1) 現在までの発生量は平年並であるが、一部のほ場ではやや多い。
- (2) 3地点のトラップ調査における有翅アブラムシの飛来量は概ね平年並～やや少なく、誘殺のピークは概ね平年並と考えられる。
- (3) 今後の気象予報（5月11日発表）によると、向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%、日照時間は少ない確率40%である。

《発生しやすい条件：生育適温は20～25℃、晴天が続く雨が少ない場合。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) アブラムシ類に対する防除圧が低いほ場で発生が多い傾向にある。ほ場をよく見回り、早期発見・早期防除を心がける。
- (2) この時期には種・定植される野菜・花き類では、吸汁被害に加えウイルスの媒介によるウイルス病の発生が懸念される。防虫ネットや寒冷紗の被覆、は種・定植時の殺虫剤の施用など、防除に努める。
- (3) ほ場および周辺の雑草は除去する。

II) イネ

縞葉枯病	発生地域	発生時期	発生量
	感受性品種栽培地帯	並	並

1 予報の根拠

- (1) 令和5年2月～3月に採取したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス（RSV）保毒虫率の県平均は1.9%で昨年並、過去10年の平均値3.5%を下回った（令和5年3月24日発表 発生予察情報）。
- (2) RSV保毒虫率が2.2%であった昨年のイネ縞葉枯病の発生は、平年並であった。

《発生しやすい条件：ヒメトビウンカのRSV保毒虫率が高い場合。ヒメトビウンカ幼虫の越冬量が多い場合。ヒメトビウンカの発生量が多い場合。》

2 防除上注意すべき事項

- (1) イネ苗へのヒメトビウンカの飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所やムギ類作付ほ場付近での育苗を避ける。
- (2) ヒメトビウンカ（ウンカ類）に効果のある育苗箱施用剤を使用する。なお、県内では殺虫成分フィプロニル（プリンス粒剤など）に対する薬剤抵抗性をもつヒメトビウンカの割合が高いため、使用にあたっては注意する。
- (3) イネ縞枯病感受性品種（コシヒカリ、ひとめぼれなど）を作付する場合は、防除を徹底する。
- (4) 今後発表される5月4半旬のすくい取り調査によるヒメトビウンカ越冬量や、予察灯へのヒメトビウンカの誘殺数に注意する。

【その他の病害虫の発生予報】

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	特記事項
イネ	イネミズゾウムシ	並	並	昨年の発生量は平年並であったが、一部中山間地域でやや多かったため、注意する。
	苗立枯病	並	並	現在までの発生量は平年並。
ムギ	赤かび病	早い	並	出穂期は平年より早まった。現在まで平年並の気象条件で経過している。赤かび病が発生した場合には、刈り分け等を行い、被害粒が混入しないよう注意する。食用麦の赤かび被害粒混入割合基準は0.0%（1万粒に5粒未満）である。
	うどんこ病	—	並	現在までの発生量は平年並。病斑が上位葉に進展した場合、稔実が悪くなり収量減につながるため、発生を認めたら適切な防除を行う。
	さび病	—	並	現在までの発生量は平年並。
ナシ	赤星病	—	並	農業技術センター（伊勢崎市西小保方町）のビャクシンにおける冬孢子堆の成熟は平年よりやや早く、孢子の飛散が完了する時期も平年よりやや早い見込み。
	ナシヒメシンクイ	—	並	フェロモントラップ調査による越冬世代の誘殺数は平年並。
果樹類全般	チャバネアオカメムシ	やや早い	並	一部のフェロモントラップと予察灯では、平年より早い時期に誘殺が確認されている。誘殺数は平年並。
施設果菜類	灰色かび病	—	並	現在までの発生量は平年並。発病葉や発病花、発病果は伝染源となるため速やかに取り除き、施設外に持ち出して適切に処分する。
トマト キュウリ	コナジラミ類	—	並	現在までの発生量は平年並。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病、キュウリ退緑黄化病のウイルスを媒介するため、施設内に黄色粘着板を設置するなど、早期発見に努める。
キュウリ	べと病	—	並	現在までの発生量は平年並。肥料切れや草勢の衰えにより発生が助長されるため、適切な肥培管理を行う。また、多湿管理下で発生量が増加するため、適切な湿度管理を行う。
	褐斑病	—	並	現在までの発生量は平年並。促成栽培の後期は施設内が高温条件となり、多湿管理下で急激に発生量が増加するため、適切な湿度管理を行う。
	うどんこ病	—	並	現在までの発生量は平年並。多発してからの薬剤散布は効果が劣るので、発生を認めたら早めに防除する。
	アザミウマ類	—	並	現在までの発生量は平年並。ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病のウイルスを媒介するため早期防除に努める。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	特記事項
ナス	ハダニ類	—	並	現在までの発生量は平年並。 気温の上昇とともに発生量が増加するため、早期発見及び早期防除に努める。
	アザミウマ類	—	並	現在までの発生量は平年並。 気温の上昇とともに発生量が増加するため、早期発見及び早期防除に努める。
夏秋キャベツ	コナガ	—	並	トラップへの誘殺数は冬春キャベツでは平年並、安中、洪川の育苗ほでは平年並。 生育初期の防除を徹底し、初期密度を下げることにより、生育期中盤以降の被害拡大を防止する。

【今月の気象情報】

# 関東甲信地方 1か月予報

(5月13日から6月12日までの天候見通し)

令和5年5月11日

気象庁地球環境・海洋部 発表

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

要素	地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信地方	20	40	40
降水量	関東甲信地方	30	40	30
日照時間	関東甲信地方	40	30	30

＜概要＞

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%、日照時間は少ない確率40%です。

週別の気温は、1週目は平年並または高い確率ともに40%、2週目は平年並の確率50%、3～4週目は高い確率40%です。

＜参考＞ 5月の前橋地方気象台観測平年値

	平均気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)
1半旬	16.9	11.1	33.8
2半旬	17.5	12.2	32.0
3半旬	18.0	14.6	31.5
4半旬	18.8	17.3	32.4
5半旬	19.6	18.5	32.9
6半旬	20.3	21.3	38.5

農薬の登録内容は随時変更されておりますので、防除薬剤については指導機関にご相談下さい。  
また、以下のホームページでも確認できますのでご利用下さい。

- ◆ 農林水産省 農薬コーナー (農薬に関する様々な情報)

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>

- ◆ (独) 農林水産消費安全技術センター (最新の農薬登録状況の検索や登録・失効農薬情報等)

<http://www.acis.famic.go.jp/index.htm>

- ◆ 群馬県 農作物病害虫・雑草防除指針

<https://www.pref.gunma.jp/06/f0900064.html>

- ◆ 群馬県農業技術センター 病害虫発生予察情報一覧

<https://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html>

- ◆ ぐんま病害虫ライブラリー

<https://sites.google.com/view/g-byougai>



病害虫発生予察情報  
一覧はこちら！